がん性疼痛看護認定看護師

1．がんの痛みがある患者さんの身体的・精神的な苦痛を和らげ、療養生活に関する　困りごとを解消できるよう共に考え、その人らしい生活が送れるように支援します。
2．WHOがん疼痛治療法に基づく痛みの治療と看護を実践します。
3．医療用麻薬についての正しい知識と使い方を説明します。
4．患者さんやご家族が自分でできる痛みの緩和方法をお教えします。
5．看護師や看護学生へがんの痛みの治療と看護に関する教育を行います。
6．がんの痛みの治療や看護に関する相談を受け、よりよい治療と看護ができるようサポートしています。

こんな活動をしています

緩和ケアチームのメンバーとして

■ 緩和ケアチームは、医師や薬剤師、心理士、栄養士、ソーシャルワーカーなどの専門職が連携し、がんによる様々な苦痛の緩和を専門的に行うチームです。その中で看護師は、患者さん・ご家族のお話を丁寧に伺い、精神サポートをしたり、スムーズに苦痛緩和ができるよう橋渡し役として支援します。

がん専門相談員として

■ 2015年4月からがん相談支援センターが設置されました。　がん専門相談員として、がんの治療や療養生活に関する様々な相談をお受けしています。

教育・研究活動

■ 院内教育「がん性疼痛看護コース」講師
■ 緩和ケア研修会ファシリテーター
■ 神奈川西部地域緩和ケア懇談会の企画・運営

緩和ケアについての普及啓発活動

■ ホスピス緩和ケア週間
■ 緩和ケアに関するパンフレットや講演・セミナー等の情報提供

メンバー紹介

堂園 幸子（緩和ケアチーム・がん相談支援センター）

がん看護の分野に興味を持ったのは、看護師になって５年目の頃でした。夜勤中、痛みで眠れずにいるがん末期の患者さんにマッサージをしながら、もっと何かできることはないだろうか、もっと力をつけたい。そんな思いから認定看護師を目指しました。
耳鼻科の病棟で10年間、頭頸部がんの患者さんの看護に専念しました。頭頸部がんは痛みのコントロールが最も難しいがんのひとつです。そして、食べること、話すこと、聞くことなどに支障を来します。今まで意識しなくても普通にできていたことができなくなる。そんな体験をする患者さん、ご家族と、スタッフと一緒になって、治療の大変な場面をいくつも乗り越えてきました。
緩和ケアチームでは、医師、看護師、薬剤師、心理士、栄養士などの専門職と連携してがんの苦痛を和らげる緩和治療とケアを行っています。チームのスタッフで知恵を絞り、患者さん、ご家族と相談しながら緩和治療とケアを続け、痛みが取れたときの患者さんの晴れ晴れとした表情は格別です。患者さんとご家族から、ケアを通して教えていただくことがたくさんあります。それをまた次のケアに活かし、よりよい看護ができるよう心がけています。
2015年4月からは、がん相談支援センターの相談員として、様々ながんの治療や、療養生活に関するご相談をお受けしています。

塚田 美智子（第2診療センター・総合内科外来）

消化器外科病棟に配属されて間もない新人の頃・・日に日に痛みが軽減し退院できる術後の患者さんがいる一方で、なかなか軽減しないがんの痛みに「この痛みさえなければ」と苦しむ患者さんに関わるなかでとてもジレンマを感じました。「どうしてこんなに痛みが和らがないのか？もっとがんの痛みを系統的に学んで、がん患者さんの痛みを少しでも和らげられるような看護をしたい！」という想いから認定看護師になりました。
外来患者さんにとって、毎日の生活や通院・治療にも大きく影響する、がんの痛みを緩和する事はとても大切ですし、多くの方が不安を抱えています。
こうした不安も少しでも和らげ、日常生活の中での痛みを緩和するにはどうしたら良いか？患者さんやご家族からお話を伺い、一緒に考え、医師とも相談しながら、痛みを和らげることが出来るよう頑張っています。